

グローバルに展開し成長する全員参加の開発型企业

第153期 報告書

2011年4月1日~2012年3月31日

# TOMOEGAWA BUSINESS REPORT



# ごあいさつ



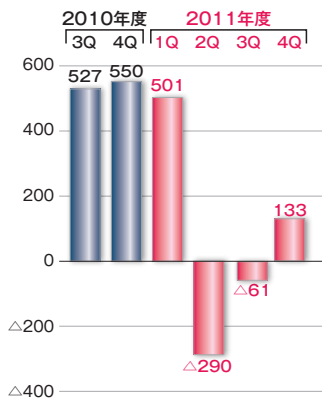
## ■ 第153期(2011年度)の業績

第153期においては、世界的な景気後退や歴史的な円高の進行に加え、フラットパネルディスプレイ(以下、FPDと略す。)業界の極端な不振を受け、当社グループの主力であるプラスチック材料加工事業(FPD関連製品、半導体関連製品、トナー)が大きな影響を受け、当期の売上高は、前期と比べ69億2千6百万円減収の346億9千9百万円(16.6%減)と大幅な減収に終わりました。但し、凸版印刷株式会社と共同で進めている液晶ディスプレイ向け光学フィルム関連事業において販売活動を凸版印刷株式会社に集約した影響が約25億円あることから、実質的な売上高の減少は約44億円(約11%)となります。

利益面については、売上高の減少を受けて第2四半期(7~9月)から経常赤字に転落したものの、一部生産設備の停止を含めコストの合わせ込みを行ったことに加え、期末にかけて一部製品の売上に回復の兆しが表れたことなどから、第4四半期(1~3月)には黒字に回復しました。この結果、通期としての営業利益は、前期と比べ22億8千4百万円減益の2億9千7百万円(88.5%減)となり、経常利益は前期と比べ22億1百万円減益の2億8千2百万円(88.6%減)となりました。また、当期純利益は前期と比べ15億3千5百万円減益の1億8千9百万円(89.0%減)となりました。

## ■ 四半期ごとの経常利益

(単位:百万円)



## ■ 中期経営計画の策定

国内市場の縮小と新興国における競合企業の抬頭、円高の定着という経営環境は、一過性のものとは言い難い状況にあります。そのような環境の中で、当社グループは理想の姿を「グローバルに展開し成長する全員参加の開発型企業」と定め、成長の基盤を海外に求めてグローバル化を推進するとともに、競争優位のある高機能性材料の開発・上市等を通じて速やかに成長路線に回帰すべく、2012年度を初年度とし創業100周年にあたる2014年度を最終年度とする、第5次中期経営計画を策定し、4月より実行に移しております。主要施策および数値目標については、5ページをご覧ください。

## ■ 第154期(2012年度)の展望

第5次中期経営計画の初年度にあたる第154期については、この流れに沿い、売上高360億円(前期比3.7%増)、営業利益7億円(前期比135.5%増)、経常利益7億円(前期比147.7%増)、当期純利益4.5億円(前期比138.0%増)を見込んでおります。

また、次期の配当(予想)については、業績と将来に向けた内部留保のバランスを勘案する中で株主の皆様に対する適正な利益還元を安定且つ継続的に実施するとの考え方に立ち、上記の見通しを踏まえて、当期と同様の1株当たり5円の期末配当を予定しております。

株主の皆様におかれては、引き続きのご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

井上善雄

# 業績ハイライト

## トピックス

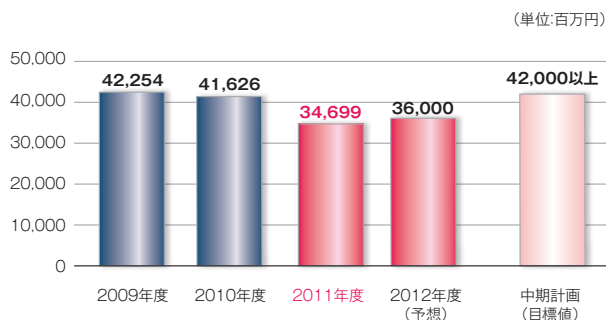
### 3期連続での利益確保

震災の影響、歴史的な円高といった経済環境下、事業環境が急速に悪化しましたが、生産設備の一部停止等の各種施策を講じた結果、大幅減収ながらも利益を確保することができました。

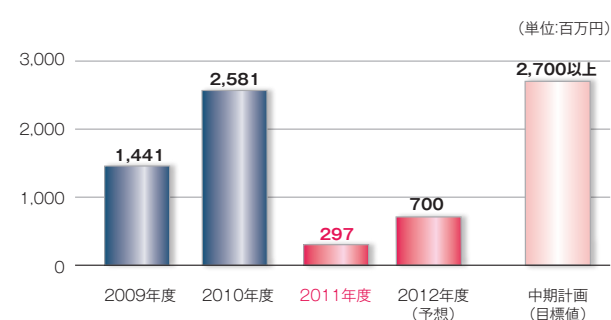
### 財務体質の改善

事業環境が悪化する中で、前期末から有利子負債を約14億円削減するなど、引き続き財務体質の改善に努めました。

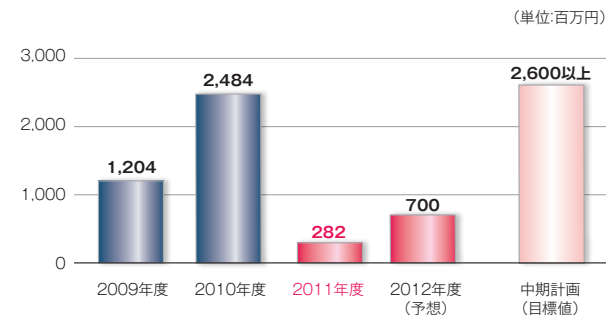
#### ■ 売上高



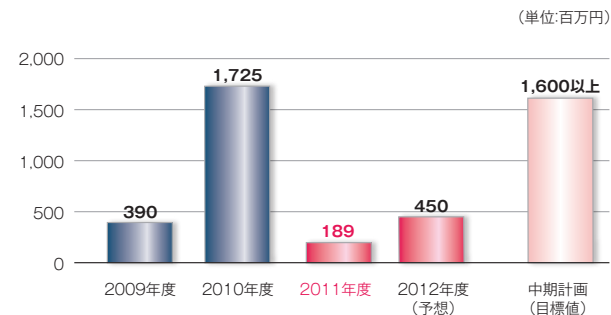
#### ■ 営業利益



#### ■ 経常利益



#### ■ 当期純利益



# 連結財務諸表

## 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	2010年度 (2011年3月31日)	2011年度 (2012年3月31日)	
資産の部			0
流動資産	24,859	20,267 <b>1</b>	10,000
固定資産	22,018	22,346	20,000
合計	46,877	42,614	50,000

(単位:百万円)

科目	2010年度 (2011年3月31日)	2011年度 (2012年3月31日)	
負債・純資産の部			0
流動負債	23,239	19,500 <b>1</b>	10,000
固定負債	11,278	10,823 <b>2</b>	20,000
株主資本	12,269	12,229	30,000
少数株主持分*	90	62	40,000
合計	46,877	42,614	50,000

\*その他の包括利益累計額を含みます。

### POINT ポイント1

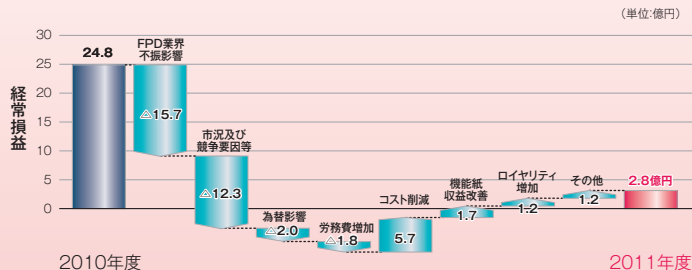
2011年度は事業環境の悪化などに伴う大幅な売上高の減少により、流動資産、流動負債の減少に加え、有利子負債の返済も進めたことから、総資産の圧縮が進みました。この結果、自己資本比率は24.3%から26.6%へと改善しました。

### ポイント2

負債の中に含まれる有利子負債残高は約184億円となり、前年度末に比べ約14億円減少し、4期連続して減少しました。

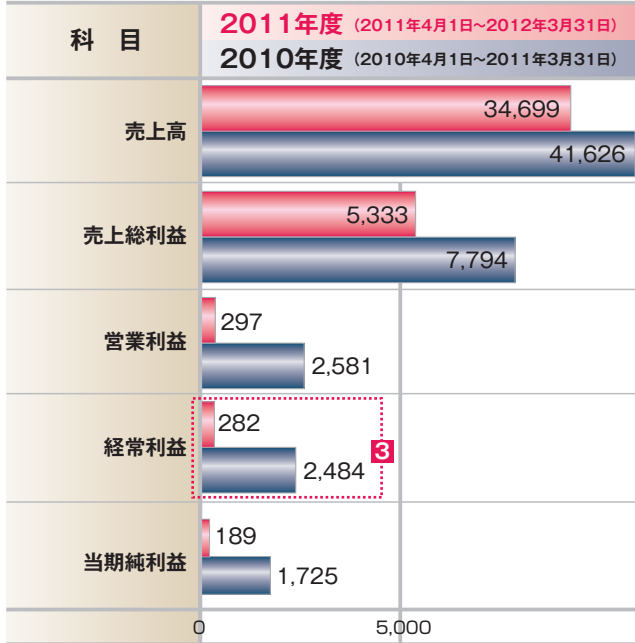
### ポイント3

対前年度での経常利益減少(約22億円)の主たる要因は以下の通りです。



## ■ 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

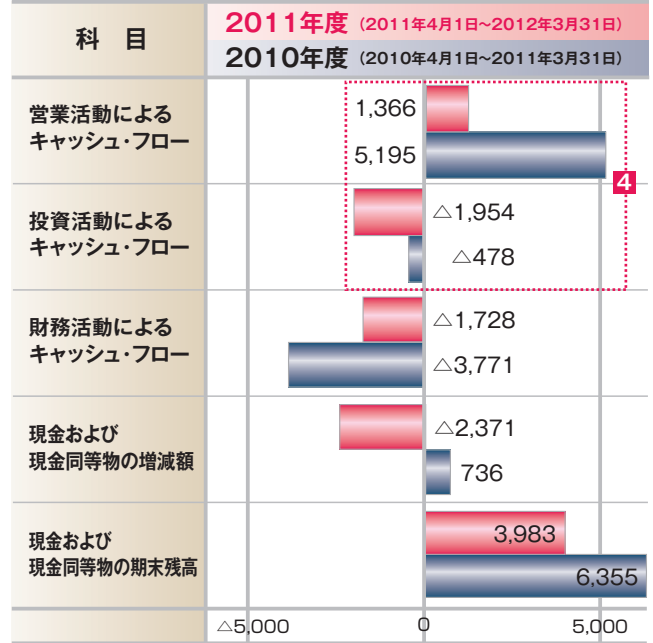


### ポイント4

2011年度は、大幅な減益に伴い営業活動によるキャッシュ・フローは対前年度比で大幅な減少となりました。一方、インドおよび中国で成長のための新たな合併事業に着手するなど、投資活動による支出は増加しました。

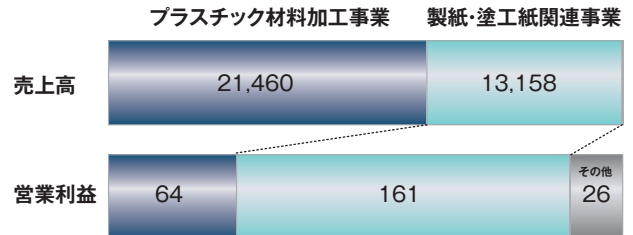
## ■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)



## ■ 主なセグメントの事業概況

(単位:百万円)



FPD関連、半導体関連、  
化成品(トナー)とも、事  
業環境悪化の中で対前年  
度比で大幅な減益

特に機能紙分野の新製品  
の成長により、黒字化を  
実現



# 第5次中期経営計画(2012年度~2014年度)について

## 理想の姿

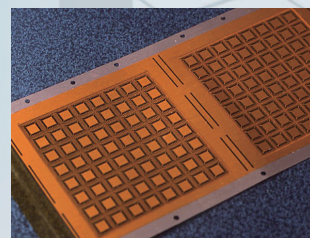
### グローバルに展開し成長する全員参加の開発型企業

## 3年間の位置づけ

創業100周年である2014年に向け、次の50年を生き抜くための礎を築く。

## 主要な施策

- ① **トップライン\***の向上  
海外市場開拓と新製品上市による売上高伸長及び  
合併事業を通じた成長
- ② **グローバル化を見据えた構造改革の推進**  
海外拠点の拡充と国内拠点のマザー工場化
- ③ **提案型開発案件の立上げ**  
研究開発から事業化に至る体制の再構築
- ④ **世界基準で戦える労働生産性の実現**  
業務処理の統廃合・効率化と全社集中管理体制への移行
- ⑤ **競争力の源泉となる自律型人材の育成**



スマートフォン用途などでの成長が著しい半導体製造工程用QFNテープ



設備拡張を進める中国トナー工場

## 第5次中期経営計画の最終年度(2014年度)の目標

【連結売上高】 420億円以上

【経常利益(利益率)】 26億円(6.2%)以上

【営業利益(利益率)】 27億円(6.4%)以上

【当期利益】 16億円以上

※トップラインとは、連結売上高に持分法適用会社の持分相当の売上高を加えたもの

# 会社概要

(2012年3月31日現在)

商号	株式会社巴川製紙所 (TOMOEGAWA CO.,LTD.)
設立	1917年(大正6年)8月15日
資本金	2,894,953,550円
従業員数	連結 1,220名 単独 317名
主要事業所	本社(東京都中央区) 静岡事業所(静岡市駿河区) 清水事業所(静岡市清水区) 大阪営業所(大阪市生野区)  グループ会社事業拠点 静岡市、大阪市、岡山市、潮来市、敦賀市 米国、オランダ、中国、香港、韓国、インド

## 役員

(2012年6月26日現在)

### 取締役

代表取締役社長	井上 善雄
取締役相談役	平野 国雄
取締役常務執行役員 社長補佐 兼 製紙事業担当 兼 コンプライアンス委員会委員長	石垣 茂
取締役常務執行役員 電子材料事業部管掌 兼 画像材料事業部長	今田 俊治
取締役執行役員研究開発本部長	越村 淳
社外取締役	小森 哲郎
社外取締役	三井 清治

### 監査役

常勤監査役	安藤 剛
社外監査役	鮫島 正洋
社外監査役	松下 和興

### 執行役員(専任)

執行役員社長室長	中川 誠
執行役員事業推進本部長	大澤 泉
執行役員経営戦略本部長	山口 正明
執行役員精密塗工事業部長	鈴木 雅康
執行役員電子材料事業部長	作本 征則

# 株式の状況

(2012年3月31日現在)

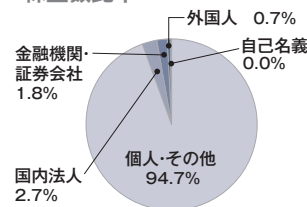
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	51,947,031株
株主数	3,223名
大株主	

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
凸版印刷(株)	5,697	10.9
昌栄印刷(株)	3,314	6.3
栄紙業(株)	2,906	5.5
鈴与(株)	2,494	4.8
三井化学(株)	2,439	4.6
(株)三井住友銀行	1,979	3.8
三弘(株)	1,751	3.3
東紙業(株)	1,688	3.2
井上善雄	1,556	2.9
(株)三菱東京UFJ銀行	1,469	2.8

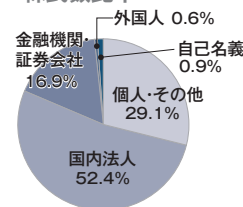
※自己株式を含む

## 株主の分布状況

### 株主数比率



### 株式数比率



# 株主メモ

証券コード 3878

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関

同 連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
☎0120-232-711 (通話料無料)

同 取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

上場証券取引所 東京証券取引所

公告方法 電子公告により行う  
公告掲載URL <http://www.tomoegawa.co.jp>  
(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。)

1単元の株式数 1,000株

# TOMOE GAWA

## 株式会社巴川製紙所

本社 〒104-8335 東京都中央区京橋1-7-1

静岡事業所 〒421-0192 静岡県静岡市駿河区用宗巴町3-1

清水事業所 〒424-0831 静岡県静岡市清水区入江1-3-6

大阪営業所 〒544-0034 大阪府大阪市生野区桃谷1-3-23

### 本報告書についてのお問合せ先

経営戦略本部 企画グループ

TEL : 054-256-4319

<http://www.tomoegawa.co.jp>

株主の皆様これまで年2回送付してまいりましたTOMOE GAWA BUSINESS REPORT (報告書)については、自社ホームページでの各種開示を一層充実させることで、皆様への送付は、今後は年1回6月下旬のみとさせていただきます、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



## 第5次中期経営計画を策定 (表紙のご説明)

2012年度~2014年度の第5次中期経営計画で掲げた理想の姿「グローバルに展開し成長する全員参加の開発型企業」をイメージして、社員をモデルに撮影しました。(中期経営計画の内容は5ページをご覧ください)

## インドにおける 絶縁紙メーカーへの出資について

このたび、インドの絶縁紙メーカーであるAura Paper Industries(India) Pvt.Ltd.に出資し、同社株式の40%を取得しました。当社創業以来蓄積された特殊紙製造技術を活用し、アジアを中心とした新興国における絶縁紙ビジネスの拡大を目指します。



Aura Paper Industries(India) Pvt.Ltd.:  
<http://www.aurapaper.com/>

## フォレストック認定を取得しました

紙・パルプ業界としては初めて、当社が和歌山県等に所有する森林がフォレストック認定を取得しました。この認定制度に基づき、森林のCO<sub>2</sub>吸収機能などが算定され、CO<sub>2</sub>吸収量を第三者へと販売流通することが可能となりました。当社はここから得られる収益を、さらなる森林整備保全につなげてまいります。



一般社団法人「フォレストック協会」のホームページでは、[森からの便り]として、TOMOE GAWAの所有林の様子を定期的にお伝えしています。  
<http://www.foreststock.or.jp/forests/tomoegawa/>